

このデータベースはコンピュータ画面の中で、1国ごとに準備された検索項目をクリックすることによって、所蔵する資料（和書）の書誌データが見られるもので、哲学、歴史、社会科学、自然科学、工学、産業、芸術、語学、文学など「日本十進分類法」の分野を、さらに利用者に使いやすい項目に改めて提供しています。今後も、世界の全ての国について書かれた図書を運用できる国別データベースを目指して、努力していきますのでご期待ください。

Encyclopaedia Universalisの新版を購入

濱崎史朗元本学教授のご寄付で

本誌の157号でもご紹介いたしましたように、元本学フランス語学科教授の濱崎史朗先生が昨年3月のご退職時に学校法人京都外国語大学へご寄付をされた30万円、森田嘉一理事長から「濱崎先生のご厚情を所蔵資料に反映させるように」というお言葉と共に図書館へいただきました。本学図書館はこの寄付金で、昨年夏に出版されたフランスの百科事典 *Encyclopaedia Universalis* の最新版（全28巻）を購入いたしました。

この図書は第1閲覧室の辞書・事典コーナーに配架され、フランス語学科やフランス語を勉強する人たちを中心にして、多くの学生の皆さんに使っていただけるようになっていきます。

濱崎先生には、厚くお礼を申し上げますと共に、図書館利用者の皆様に謹んでご報告を申し上げます。

定期試験前・試験中の休日開館を実施します

自習を中心にご利用ください

本学図書館は秋学期定期試験前の1月19日と同じく、1月26日、さらに定期試験中の2月2日の各日曜日を、自習を中心にして使っていただくための開館日（本館・分館共）といたします。

多くの学生の皆さんに図書館をお使いいただき、試験で効果をあげていただきたいと思います。

自宅からの検索はホームページで！

司書雑感

情報発信型図書館へ向けての挑戦

新春を迎えました。2年前のこの時期は「ニュー・ミレニアム」という言葉と共に、新世紀を迎えた喜びが世界中に満ち溢れていました。私たち図書館員も、早くからニューセンチュリー・プロジェクトを作りたいと考えていました。その頃、「新しい世紀はコンピュータの発達と情報化の進展」との予測が定着していたことから、情報発信型図書館としての機能を確立することになりました。

この情報発信型図書館とは、冊子体の図書館報で蔵書構成の伝統的な特徴と資料提供機能の説明をしながら、電子メディアで即時性を持った利用価値の高い情報を発信することです。さらに、この二つのPR媒体から発信する情報が有機的に結合することでサービス体制全体が向上し、学外の方々にも喜んでいただけます。

特に、ホームページから多彩な方法で蔵書検索ができる仕組みを提供することは、利用者の皆様にとって大きなメリットがあるものだと思います。本来は検索だけではなく、資料の内容までも読み取れるものが望ましいのですが、著作権の関係で大半の資料のデジタル化は許されません。しかし、少なくとも翌日必要な資料は、その日のうちに自宅からでも調べていただくことができるのです。

ただ、このレベルの検索システムは当時の大学図書館界で一般化しており、本学図書館でも「^{オーバー}OPAC（Online Public Access Catalogue）」としてご利用いただいていた。こうしたことからOPACの機能を凌駕し、独自性が発揮できる検索システムの開発を目指しました。その結果、前ページでご説明をしています「世界の言語と国際地域研究」や「世界を感動させた作家たち」などのデータベースを作り上げ、新聞や雑誌などで何度も紹介していただきました。

また、今では検索関係だけでなく、本学図書館が著作権を有する前述の図書館報もデジタル化して公開するなど、幅広い情報を発信しています。

私たちは年頭にあたり、この情報発信型図書館の機能を質・量共にさらに充実させ、サービス向上に努めて参りたいと考えています。皆様の一層のご利用とご支援をお願いいたします。

奥 正敬（司書）